

第49号

本誌は町内会費で作成されております。皆様からの情報をお待ちしております。

鵜沼橋町内会だより

特殊詐欺に注意!! 藤沢警察署 ☎24-0110(24時間0h110番)

発行人：会長 赤岡信子 ☎090-2903-7157 mail:nobuko19550327@gmail.com 編集：広報部

11月23日(水)「みんな
で『知ろう』・『学ば
う』在宅避難について」
をテーマに、鵜沼橋町



市職員から説明を受ける参加者

内会主催の防災会が行
われました。当日は雨
天の為、会場が橋(タ
コ)公園から町内会館

防災

『在宅避難』って何？

防災会開催される

1階に変更になりましたが、悪天候にもかかわらずお手伝い含め36名の方々に会場に足を運んで頂きました。防災会では、昨年度市の補助金を活用し購入した防災用品の展示の他、市役所危機管理課職員による質疑応答、防災用品の取扱業者による防災便利グッズの展示や説明がされました。藤沢市では、コロナ禍の状況で避難所の収容人数が制限されることもあり、在宅避難を推奨しています。その為、会場では在宅避難時に必要な食糧や水・トイレセットの展示をしました。市役所の職員からは、防災の心

構えや個人で備えておくべき防災用品の話等がされ、防災備品の中ではやはり食料や水が大事であること、また備蓄品の量は、個人差があるものの最低3日分、可能であれば7日分の蓄えがあるのが理想的であるとのことでした。さらに、災害時の食料は普段から食べ慣れているものが受け入れやすく、食によるストレス低減に繋がります。健康状態を維持できることから、ローリングストック(乾物やインスタントラーメン・レトルト食品等を食べた分だけ新しい物を補給する)の実施を、簡単に出来る災害時の備えとして勧めました。今回の防災会は町内会として初の試みなので、参加者の方々に会場運営や展示方法についての感想や意見、今後の活動への希

望等につき、アンケートのご協力をお願いしました。ご協力頂いたアンケート結果を参考に、町内会では今後も定期的に防災に関しての企画を実施していきます。

ペタンク大会

第16回鵜沼地区町内対抗ペタンク大会が11月13日(日)に、鵜沼小学校体育館にて行われました。10町内会で予選リーグを行い、8町内会が決勝トーナメントに進む競技方法でした。鵜沼橋町内会は予選リーグを突破するも、決勝トーナメントは惜しくも初戦敗退となりました。



生活環境

市民大会開催

大会宣言と八達啓義表彰

藤沢市生活環境連絡協議会市民大会が10月19日(水)に開催されました。大会には、鈴木恒夫藤沢市長をはじめ県・市議会議員らの来賓をお迎えし、第一部では個人・団体の感謝状

贈呈・大会宣言の採択等が行われ、第二部では環境関連映画の上映・ポスター入選者の表彰が行われました。生活環境部は、ボランティア組織である藤沢市生活環境連絡協議

会を通じ、次のような活動に協力していただきます。①藤沢市きれいで住みよい環境づくり条例周知啓発キャンペーン(藤沢駅・辻堂駅・湘南台駅周辺で行う条例周知、駅前清掃活動)②ゴミゼロクリーンキャンペーン(海岸清掃イベント)③一日清掃デーの実施

①食器をラップで覆えば洗い物いらず 災害発生時には、水の使用量が制限される場合があります。そんな時には、食器をラップで覆ってから食品を盛り付けましょう。食品を盛り付けても食器が汚れず、食事が終わったら、ラップを処分するだけでいつでも衛生的に食器を使用できます。②懐中電灯と水を入れたペットボトルでルームライトに 停電になった場合、懐中電灯を上向きに

防災豆知識その⑥

覚えておきたい豆知識

置き、その上に水の入ったペットボトルを置きまます。ペットボトル内で水が光を反射し、部屋全体を明るく照らしてくれます。③新聞紙+ビニール袋で食器に 食器不足の場合には、新聞紙とビニール袋を組み合わせましよう。新聞紙をコップの形に折ったり箱型にして、清潔なビニール袋をかぶせれば、コップやお皿代わりになります。

(市民と共同で行う市内の一斉清掃)生活環境部では、皆様とともにきれいで住みよい環境を作り続けてまいります。

12月に一ヶ所 掲示板を設置

「鶴沼橋町内会掲示板」を町内1か所(1丁目15番地、プラウド鶴沼橋前の三角地内)に新設します。仕様はアクリル引戸付きのアルミ製で、12月の設置を予定しています。掲示板は、町内会のイベント情報をはじめ、防災・防犯情報、行政機関からの情報など、皆様役に立つ情報の有効な発信手段ですが、現在、町内会館の壁に1か所あるのみで、以前から増設してほしいという要望が寄せられています。

ふじさわ探訪⑦

肥上道(こえあげみち)

藤沢市の魅力的な観光地といえば、江島神社に祀られている江島弁財天だろ。 「江の島詣」が全国区となったのは、源頼朝や北条時政ら御家人の参拝がきっかけである。そんな江の島詣の人氣が爆発したのが江戸時代だ。泰平の世に入り、庶民も泊まりがけの旅を楽しめる時代となったことで、江戸から近場である江の島詣が人氣を集めた。江の島詣で沢山の人が集まるようになると、辻堂村の農民が、片瀬や江の島の旅館街の尿尿汲み取りの権利を得て、それを下肥として辻堂村に運ぶルートを確認しようと鶴沼村に交渉した。鶴沼村側は村内通過を許

さず、遠く海岸沿いの道を通るようにしたため、この道を「肥上道」と呼ぶようになったと伝えられる。この不名誉(?)な名前の道は、134号線沿いの内陸を東西に走る道として現在も残っている。



大正中期の鶴沼海岸 1921(大正10)年測図 1:25,000地形図による

鶴沼橋町内会ホームページをご利用下さい。

